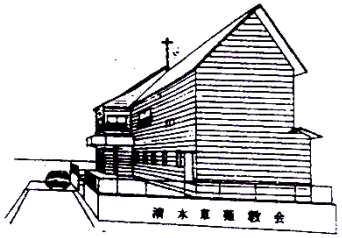
≪夕礼拝の聖書から≫聖書には、“最後の審判”が必ずなされることが記されています。それは、救われた者の救いの時であり、そうでなかった者にとっては永遠の裁きの時、そのことがはっきりする時なのです。そしてキリスト信仰は、これを、その通りだということを受け入れ、救い主、すなわち十字架でわたしたちのすべての罪のからの贖いを成就して下さった方の“きよさ”によって、私たち自身の救いを確信することにあるのです。また沢山の先人が追い求めてきた真実が明らかにしたように、歴史における事実でもあるのです。永遠の命、実に魅力的な出来事です。私たちは、まず間違いなく確実に、病気や事故で死ぬでしょう。戦争で死ぬこともあります。けれども、永遠の命ということを求め続けてきました。ヨーロッパでもアジアでもアフリカでもみなそうでした。ファラオは大きなピラミッドを建て、実力で永遠の命を勝ち取ろうと、ささやかな願いを抱いて死んでいきました。そこには“私の命が終わる”、“何の思いも残らない”ことへの恐怖があったのです。どんな富も一秒たりとも、命を長らえることはなかったという話はよく聞きます。なのに私たちには希望が必要なのです。必要というよりは、願いがなければ生きていくことはできないといったほう良いかもしれません。もしこれで終わるなら、せいぜい充実した人生を送ればよいということにしかなりません。今朝の４６節の言葉に“裁きと救い（永遠の命）が用意されている”とあります。もう一つ注目すべきことは、“裁きの座”を見上げて主から尋問を受けるとき、救われる人々も、そうでない人々も、かつて救われるに値することを行ったか行わなかったか、全く記憶にないということです。“何時私たちがそのようなことをしましたか？あるいはしませんでしたか？”と裁き主に逆に質問しています。滅びに値することは、何一つしないように、一切の悪事を行わないように努力しよう、と努力することもできるでしょうが、罪を犯してしまうのが人なのです。限りなく続く裁きに比べれば、今は短い時といえるでしょう（ウェスリー）。しかし、私たちのすべての罪が“聖なる交換”によって、キリストの清さに置き換えられる時の来ることを知って生きることはできます。救いを得たとはパウロも言っていません。けれども努力した、と言っています（ピリピ書）。

週　報

２００８年　１１月　２３日



伝えよう　救い主を
迎えよう　主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師　　村上　定幸

教会学校	毎日曜日	午前　9：00
礼拝式	毎日曜日	午前 10：30
	（聖餐式　第一日曜日）	
夕礼拝式	毎日曜日	午後　7：00
エステルの会	毎水曜日	午前 10：30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後　7：00

ホームページ　http://kusanagi.church.jp/

〒424-0885
静岡市清水区草薙杉道３丁目２－２６
☎054-345-4070　E-Mail grace@big.jp